

高脂血症

Hyperlipidemia

高脂血症とは、血液中のコレステロールあるいはトリグリセリドという物質のどちらか一方、またはこの両方が増加した状態をいいます。一般的には血液検査をした時(空腹時)に遠心分離した血清が白く濁っていた時に高脂血症と言われることが多いようです。しかし、厳密にはこれは高カイロミクロン血症と言われる高脂血症の種類の一つのうちのひとつと覚えてください。

原因

高脂血症は大きく2つの原因に分けることができます。一次性高脂血症と他の病気が原因である二次性高脂血症です。犬の場合、一次性高脂血症の最も大きな原因は飼育者の犬に対する生活習慣(食餌管理、運動管理など)の注意不足とされています。その他としては特殊な酵素の欠乏が原因となります。また、猫ではある種の薬剤の投与も高脂血症を招くとされています。二次性高脂血症の原因となる疾患としては、甲状腺機能低下症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症、膵炎、肝不全などが挙げられます。

症状

元気がない、嘔吐、下痢、腹痛、膵炎、痙攣発作、目の異常などが主なものです。時には肝臓が腫れたりすることもあります。また、一般的にこの病気の場合は肥満であることが多いものです。

診断法

血液検査により行います。その場合少なくとも12時間は絶食させてから行うことが重要です。また、遠心分離した血液を冷蔵庫など一晚冷蔵保存することにより増えている脂質の種類を見分けることができます。また、ヘパリン負荷試験という試験が必要になることもあります。一般的に高脂血症を診断することはどこの病院でも難しいことではありませんが、高脂血症と診断されたらより詳しくどの型の脂質が増加しているのか調べてもらうことをお勧めします。

治療法

一次性高脂血症の場合は、食餌療法と運動療法などを組み合わせて行います。但し、嘔吐や腹痛が激しく状態が悪い場合には食べ物の摂取を控え、点滴などの対症療法も必要でしょう。長期に高脂血症が見られる場合には内服薬の投与も必要になります。食餌は脂肪が少なく、繊維質が多く、不飽和脂肪酸の多いものが推奨されています。一般的には動物病院で処方される処方食を用います。二次性高脂血症その原因となる疾患を治療することが必要です。

自宅での看護法

獣医師の指示にしたがいケアしてあげてください。特に一次性高脂血症の場合は飼育者の飼育動物に対する生活習慣改善が必要になります。食餌や運動などに注意してあげる必要があります。

予防法

飼育者の動物に対する生活習慣注意不足が大きく影響しますので、食餌の質や量、運動の質や量などに注意することはこの病気の予防に非常に役に立ちます。残飯や間食を避け、日頃から優良メーカーの良質ペットフードをきちんと使い、適度な運動などを心がけると良いでしょう。

メモ

高脂血症は病気だけではなく食餌によって生理的にも起こります。特に脂肪を多く含む食餌をした場合、食後10時間程度までは正常でも見られることがあるので、食後12時間以降での検査が必要です。食後12時間以降で高脂血症が認められれば明らかに異常です。

中年齢～高齢のミニチュア・シュナウザーには高脂血症のうち、特発性高リポ蛋白血症が起こることが知られています。これは今のところ確定していませんが遺伝が示唆されています。また、ミニチュア・ピンシャー、ロットワイラーは特発性高コレステロール血症になりやすいとの報告もあります。




[広告] ▲上記QRコードで携帯から簡単アクセス可能..